

2019年度第4回価格審査会の開催について

2019年度第4回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、当財団の価格情報誌の発行前にその掲載価格の妥当性等について、外部の有識者によって審査を行うものです。

開催日時	2019年7月12日(金) 10:00 ~ 11:30	
場 所	一般財団法人建設物価調査会 会議室	
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長
	江川 浩	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
	関口 司	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 次長
	桜井 力	一般財団法人日本建設情報総合センター コリンズ・テクリスセンター長
	柳 泰彦	株式会社日本設計 コスト設計部長
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：川野辺 豊、課長：康広 誠己
	建築調査部	部長：足利 全教、次長：渡辺 弘一、課長
	監査審査室	室長：後藤 裕
	調査統括部(事務局)	部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博

2019年度第3回価格審査会議事録(案) 確認

2019年度第4回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1.	「建設物価」8月号、「Web 建設物価」8月号の価格動向
・	価格が上昇した資材は、レディーミクストコンクリート（旭川、久慈、普代、洋野、佐野、小山、目黒・世田谷、町田、川崎B、相模原A・B、平塚、藤沢、厚木、大阪、堺、茨木、泉佐野、東大阪、豊能、神戸、姫路、明石、西宮、洲本、加古川、赤穂、川西、三田、神河、岡山、倉敷A・B、津山、備前、美作、西粟倉、久米南、北九州、行橋、豊前、苅田、霧島、いちき串木野）、再生砕石・再生砂（鳥栖、鹿屋、曾於、南さつま）、アスファルト混合物・再生アスファルト混合物（長野A・B、松本A・B、上田、諏訪、伊那、大町、飯山、佐久、木曾）、ストレートアスファルト・アスファルト乳剤（全都市）、ガス【ヘリウム】（盛岡、仙台）、非鉄スクラップ【銅】（東京、広島、高松）などであることを説明。
・	価格が下落した資材は、異形棒鋼（東北、関東、近畿、中国、四国、九州の各都市）、H形鋼（東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州の各都市）、伸銅品（全都市）、レディーミクストコンクリート（長崎、諫早）、コンクリート型枠用合板（東北、北陸を除く各都市）、燃料油【軽油ローリー渡し】（全都市）、鉄スクラップ【鉄】（全都市）、非鉄スクラップ【アルミ】（沖縄を除く各都市）などであることを説明。
2.	注目資材
・	レディーミクストコンクリート【大阪】
3.	比較資料
・	企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
審議 1	地震や水害などの災害が発生した時に、極端に価格が上がる資材はあるのか。	災害が発生すると、土のうやブルーシートなど応急復旧に使われる資材の需給がひっ迫することもあったが、最近ではそれらを備蓄している自治体も増え、ひっ迫する資材が減少している。応急復旧後の本復旧段階では、昨年の西日本豪雨で愛媛県の被災地で間知ブロックが不足し価格が上昇した事例などがある。
審議 2	建設物価 (Web 建設物価含む) に大阪府 6 地区の生コン価格が掲載されている。市況は大阪市について書かれていると思うが、その他地区の状況はどうなっているのか。	大阪市をエリアとする生コン協組は、大阪府全域と兵庫県大半を販売エリアとしている。この協組の販売エリアで、大阪府 6 地区、兵庫県 10 地区を掲載しているが、全 16 地区とも協組の値上げが浸透した。
審議 3	東京 17 区で生コン価格が上がったと新聞で報道されたが、この地区の状況はどうか。	東京 17 区では、出荷量が 5 カ月連続で前年割れが続くなど需要が減少傾向にあり、2017 年 12 月に表明した値上げの満額浸透には至っていない。ただ、秋には需要が回復するとの見込みから協組の売り腰は強い。
審議 4	鉄スクラップでは、30%といった大幅な価格変動は一般的なのか。ボリュームゾーンではない規格が影響しているのか。	鉄スクラップは複数の規格があり、安価な規格で変動率が大きい値となっている。代表規格である H 2 では、それほど大きい変動率とはなっていない。
審議 5	鉄スクラップ市況は、国内需要と海外需要のどちらが大きく影響しているのか。	鉄スクラップの発生状況や海外相場、国内の鋼材需要などを考慮して国内電炉メーカーが鉄スクラップの買取価格を決めており、これが国内市況を形成する主因である。国内需要と海外需要でどちらの影響が大きいかは何とも言えない。
審議 6	鉄スクラップの国内向けと海外向けの出荷量の比率はどの程度か。	「わが国の鉄スクラップ国内需給 (日本鉄源協会)」によると、2017 年度の鉄スクラップの国内消費が約 4 千 2 百万トン、輸出が約 8 百万トンとなっている。
審議 7	伸銅品は下落、銅スクラップは上伸となっているが、銅関連の市況をどのように解釈すべきか。	原料の銅建値は、1 カ月より短い期間で見直される。伸銅品は、銅建値の 1 カ月平均値、銅スクラップは直近の銅建値を基に市況が形成されており、伸銅品と銅スクラップで異なる傾向となった。
審議 8	ストレートアスファルトの入稿情報では「原油調達コストの値上がりを背景に」とコメントしているのに対して、燃料油では「原油調達コストの値下がり」を背景に」とある。燃料油に関するコメントがなぜ異なっているのか。	ストレートアスファルトは原油価格の 3 カ月間の価格変動を、燃料油は直近の価格変動を基に販売価格が決められているため、異なるコメントとなった。
審議 9	異形棒鋼など鉄鋼製品の価格が下がっている要因は何か。	需要低迷、鉄スクラップ価格の下落などが主な要因である。
審議結果	「建設物価」8 月号、「Web 建設物価」8 月号の価格動向に問題はなかった。	